第1号

# csだよりはいちゅう

令和3年2月発行

# CSだよりの発行にあたり

令和3年1月からCSディレクターとして勤務している伊故海芳則です。どうぞよろしくお願いします。

コミュニティ・スクールへの転換を図る初年度であります。持続可能な組織にしていくために、本年度は生徒の活動状況や先生方のニーズを見定めたうえで、地域社会との連携を推進したいと考えています。子供たちの豊かな成長につながる連携のあり方・先生方の負担軽減につながる連携のあり方を、学校運営協議会委員の皆様と時間をかけじっくり模索していきます。

CSだよりはコミュニティ・スクールの広報誌として、皆様との情報共有と生徒・先生方のニーズを把握するために発行します。

先生方の要望をたくさんお寄せいただくことを期待しています。

# コミュニティ・スクールへの期待

◇ 学校と地域の連携・協働の必要性 (中教審答申から)

教育は地域社会を動かしていくエンジンの役割を担っている。 教育により、子供たち一人一人の潜在能力を最大限に引き出し、全ての子供たちが幸福に、よりよく 生きられるようにすることが求められている。

学校は全ての子供たちが自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を培う場であり、子供たちの豊かな学びと成長を保障する場としての役割のみならず、地域コミュニティーの拠点として、地域の将来の担い手となる人材を育成する役割を果たしていかなければならない。

### 〈主な理由〉



- これからの時代を生き抜く力の育成の観点 多様な人々との関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれる。
- 〇 地域に信頼される学校づくりの観点

学校が抱える課題解決のために、地域と積極的に向き合うことで信頼される。

- 〇 地域住民の主体的な意識への転換の観点
  - 行政サービス等の「公助」を期待する**地域住民の「受け身の意識」から自ら生活を**創っていくという「主体的な意識」への転換
- 〇 社会全体で、子供を守り、安心して子育てできる環境を整備する観点

課題を抱えた保護者や子供の孤立化に対応する観点、幅広い分野における女性の活躍を促進していく観点 社会総掛かりで育てる

## 地域連携の実際(試行例)



定植されたじゃがいも畑

理科部の野菜づくりに、元県立磐田農業高校 塚本行博 先生がじゃがいもづくりのお手 伝いをしてくれました。

#### 2月10日(水)

理科部生徒・顧問森下先生とじゃがいもの 栽培や管理方法など綿密な計画づくりを行い ました。

2月13日(土)

じゃがいも・小松菜を植えました。

#### 塚本行博さんの感想

子どもたちが一生懸命取り組んでいました。**みんな意欲的に作業していて気持ちがよかった。**予定より早く終わったので「小松菜」も植えることができた。

外国籍の子どもも真剣に取り組んでいて、仲良くやっていることがわかった。

久しぶりに新鮮な気持ちになり、次に子どもたちの顔を見るのが楽しみです。

プールの東側にテニスコートー面 ほどの空き地があります。雑草や雑 木に覆われ、近くの茶畑や民家に迷 惑をかけていました。仁田の友仁会 の皆様に河川のあぜ道を草刈りをし ていただきましたが、まだ手つかず の所の草刈りを、運営協議会委員の 方が冬場の枯れ草の間に除草をして くれました。



集団面接練習



除草後のプール東側空き地

CSDが面接官となり、入試の模擬面接を実施しました。生徒にとってプラスとなるよう、本番さながらの環境と雰囲気が感じられる面接練習を仕組みました。

#### ----松下先生の声 -------

- 子どもたちがより実践に近い形で面接 練習ができた。
- ・第三者による面接などで、普段より緊張 した。個々の生徒に面接の評価をしてく れたので、次への自信となった。
- 教員がその間多くの生徒に関われる。